

総合特別区域の進捗に係る評価  
[ライフ・イノベーション分野]

令和元年度

かがわ医療福祉総合特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値  $(4.7+4.3)/2=4.5$

4.5

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	へき地薬局研修参加者数	100%	5
2	複合型サービス施設	80%	4
3	鳥しょ部における地域包括ケア病床の確保	210%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値  $(5 \times 2 + 4 \times 1 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 3 = 4.7$

4.7

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値  $(2.8+2+3.4)/3=2.7$

2.7

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.8

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.4

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.8

・島しょ部、へき地における切実なニーズに応えるために構想された医療資源の乏しい地域における医療提供体制確保の為に先導的な取組みを実施してきており、これまでのICTを利用した遠隔診療と現地におけるナースの訪問看護を組み合わせた当該地域における取組が全国展開の端緒となった点でも、特区らしい事業として評価できる。今後、都市部も含む全国的なモデルの原型となるであろう。

・小豆島中央病院の地域包括ケア病床数が拡充され、地域包括システムの構造的な充実が進んでいる。小豆島の島内で統合医療がどの程度完結しているか分かる指標があると良い。また、サービス内容やアウトカムに関する指標が現在ないため、地域にどのような影響があるかを把握することが必要ではないか。

・介護報酬の加算については、さらに、地域独自の更なる工夫が必要と思われる。

・医療人材の養成には時間がかかるので、専門職職員から一般職職員へのワークシフトなども検討することが必要ではないか。

・順調に成果を上げている点を評価しつつも、島しょ部におけるコロナ感染予防や影響についての、本事業推進との関連も含め、十分な記述が必要と考える。

・コロナ禍を契機とする社会の全般的なデジタル化、それに伴うデジタル技術の進展を効果的に取り入れて、先進的なモデルの構築を期待する。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.8

### 総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算  $(4.5+2.7+3.8 \times 2) \div 4=3.7$

3.7

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。